

第34回 森と花の祭典—みどりの感謝祭— 感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり

「みどりの感謝祭」式典

毎年、4月15日から5月14日までは、みどりについての関心と理解を深める「みどりの月間」です。森と花の祭典—「みどりの感謝祭」は、全国各地の緑化行事の締めくくりとして開催しています。

今年は5月10日(土)に、本感謝祭の名誉総裁に御就任された佳子内親王殿下の御臨席のもと、衆参両院議長、江藤農林水産大臣、そのほか関係者の約300名の方々に御出席いただき、東京都千代田区のイイノホールにて式典を開催しました。

はじめに、主催者を代表して江藤農林水産大臣から、本感謝祭の意義や森林の役割などについて挨拶があり、続いて、佳子内親王殿下からおこばを賜りました。その中で、岩手県大船渡市や岡山県岡山市、愛媛県今治市などで発生した山火事による被害について触れられ、「被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、生活の再建と森林の再生が進むことを願っております。」と述べられるとともに、「皆様のご努力によって、「みどり」が守られ、育てられ、活かされていることを、たいへん心強く思います。」と述べられました。

続いて、みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰、花いっぱい運動や緑化活動に取り組む緑の少年団等への苗木と花の特別贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞者の表彰を行いました。

式典の最後には、令和8年春に全国植樹祭が開催される愛媛県を代表し、同県今治市で活動している朝倉緑の少年団から、山火事跡地での森林再生に向けた力強い誓いの言葉が述べられました。



江藤農林水産大臣による主催者代表挨拶



佳子内親王殿下からのおこば



苗木と花の特別贈呈



誓いの言葉

また、式典に先立って、佳子内親王殿下から各受賞者等へのお声かけが行われました。内親王殿下から愛媛県の緑の少年団の小学生に、「近くの地域で山火事があった大変でしたね。」とお言葉をかけられるなど、受賞者等と和やかな雰囲気での交流が行われました。



みどりとふれあうフェスティバル

みどりの感謝祭の併催行事として、5月10日(土)と11日(日)の2日間、東京都八王子市内の高尾599ミュージアムの敷地内で、「みどり」とふれあうフェスティバルを開催しました。

20の団体がみどりや木材に関する普及や体験のブースを出展し、林野庁からも「レクリエーションの森」で見られる花や動物などがデザインされたオリジナル缶バッジ作りや、サザエさん一家の「森の環心援助」に関する展示等を行いました。当日は、高尾山の登山客や親子連れなど、多くの方がフェスティバルに会場され、木工体験やクイズラリー、丸太切りなど、子供から大人まで、楽しい時間を過ごされていました。

